



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 岡野 友宏
編集責任者 広報委員長 高橋 浩二
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151(代表)

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

生活習慣病(むし歯や歯周病)からお口の健康を取り戻すために

総合診療歯科 科長 長谷川 篤司

秋らしく清々しい、また食欲をそそる季節になりました。

歯科の2大疾患であるむし歯や歯周病のいずれかを患っている患者さんは少なくありません。そして、通院して“治した”にもかかわらず、しばらくするとむし歯や、歯肉の腫れや出血、歯の動揺などが再び発症してしまう方も少なくないではありませんか。

ご存知の通り、むし歯と歯周病は生活習慣病です。下図のように、どちらの病気も健康が損なわれて**未病**(自覚症状もなく静かに病状が悪化する状態)を経て、**発症**の状態に至ります。

このように健康を損ない、病状を悪化させる代表的な問題因子が、①生活習慣の乱れや悪化、②歯や歯周組織などの形態や位置の異常、③悪習癖などです。

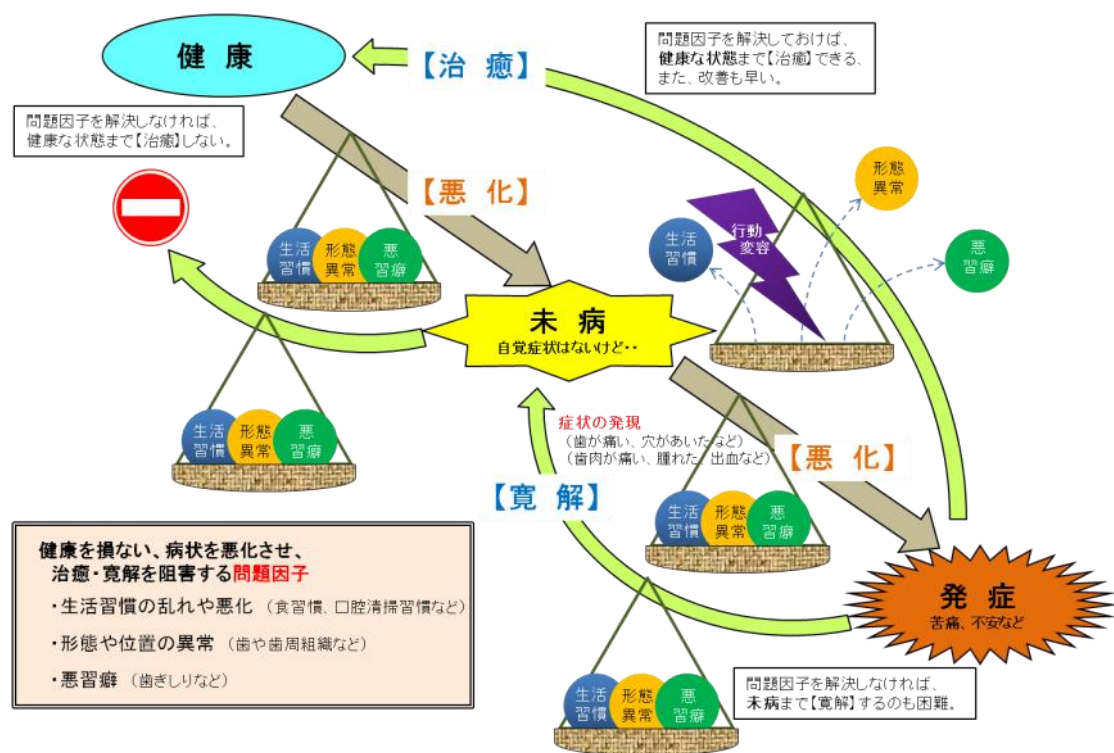
例えば、むし歯を詰め物できれいに詰めたとしても、**治癒**した(健康状態に戻った)のではなく、**寛解**(自覚症状のない**未病**状態に戻した)だけであり、問題因子を解決しておかないと再び**発症**に至るという構図になります。

逆に問題因子を解決できれば、**健康な状態**まで**治癒**することが可能になるだけでなく、現在の病状の改善も早くなります。

この問題因子解決の多くに患者さんの**行動変容**が必要となります。

我々、総合診療歯科では多くの研修医が診療にあたっております。一口に**行動変容**といっても容易でない場合が多いので、患者さんの苦痛や不安、そして生活習慣や口腔清掃習慣、希望などを時間をかけてお聞きして、患者さんが受け入れやすい**行動変容**の糸口を個別に提案、指導させていただきます。

当科研修医は情熱をもって、患者さんが自ら積極的に生活習慣などの改善に取り組んでいただき、真のお口の**健康**を取り戻していただけるように協力させていただきます。



総合診療歯科 紹介

総合診療歯科とは何が総合なのでしょう。私たちの目指すところは、国民の健康や病気に総合的・継続的に対応する医療としての「プライマリ・ケア」、言い換えれば、「身近にあって、何でも相談ののってくれる総合的な歯科医療」、大きな病院での専門医療に対して、ふだんから何でも診てくれて相談に乗ってくれる身近な歯科医師による総合的な歯科医療です。

病院内での総合診療歯科の役割は？

昭和大学歯科病院には、18の診療科と6つの中央診療部門の合計24の部署があります。歯科病院に初めて来院された患者さんには、いろいろな場合があると思います。紹介状を持ってどこに行くかが決まっている方、紹介状は持っていないが決まった専門的な科へ行きたいという希望を持っている方は、病院の初診受付から直接ご希望の科へ行って頂くことになっています。一方、具体的に何処の科を受診して良いのかわからない、専門的な科へ受診をしたいが、受診したい科が複数あり、どの科を最初に受診するのが良いかわからない等の、どこを受診して良いかわからない患者さんのお話を聞き、適切な科へと案内する役割を業務のひとつとしています。お気軽に相談して頂き、適切な部署にご案内したいと思っています。

もうひとつの業務は、その名前のおり、総合的に歯科診療を行います。成人一般歯科治療について総合治療計画に基づき、効率よく治療を行います。治療計画は、研修医を含めた医局員全員で吟味し、第三者の指導医が確認した上で、最良の方法を策定しています。策定した治療計画に従って治療に入る前に、「お口の健康状態」を理解しやすい資料(写真)で説明し、個人の事情やライフスタイルにあわせた「総合治療計画」と「生活習慣の改善」を提案して、患者さんも積極的に治療に参加して頂くことをお願いしています。また、一旦治療が終了した後も、定期的な診察、検査によって“お口の健康”を生涯にわたって管理

サポートする家庭医でありたいと考えています。



「お口の健康状態」を理解しやすい資料

複数の専門科を受診している場合に、その都度異なった科を受診し担当の歯科医師が交代し、時間も少しかかって不便だと思われることがあるかと思います。総合診療歯科では、総合的にお口の中を管理していきますので、複数の科を行ったりきたりが少なくなります。もちろん、専門的な処置が必要な場合は大学病院の特色をいかして最適な専門科に紹介します。

総合診療歯科は、病院の4階西診療室内にあり、総合診療を学ぶ若い先生19名とともに、常勤歯科医師8名と客員教授5名が中心となり、患者さんのお口の健康の回復・増進によって日常生活の質(QOL)を維持・向上していただくために、医局員一同がんばっています。気軽に歯科の悩みをご相談いただければ幸いです。

総合診療歯科 医局長 伊佐津 克彦



今では、患者さんにおいてもCTという言葉に違和感が無くなった時代だと思われます。実際、当院にCT検査を受けに来られる患者さんの中には既に他の病院で受けたことがある、何回も受けたことがあると話される方も少なくはなく、身近になっているようです。当院には歯科領域の専門の歯科用CTも勿論ございますが、医科用CTも保有し検査に使用しております。その主な使用目的が、口腔に発生した悪性腫瘍の診断です。口腔にも他の臓器と同様に様々な悪性腫瘍が生じます。その代表格が、癌(がん)です。がんの最大の特徴は、発生した部位から周囲に浸潤(しんじゅん)すること、離れた部位に転移することです。どちらも進行すると治療が困難になります。したがって、口腔がんの診断に期待されることの1つが早期発見・早期診断です。既にがんが大きくなっていった場合では、どの病期(ステージ)に該当するかの診断が重要です。ここで医科用CTの出番となります。医科用CTを用いたがんの検査では、造影剤という薬剤を静脈から注入して行うのが一般的です。がんや血管などを染め出して、がんの広がりや両者の位置関係などを理解し易くするためです。あるいは他の病気との鑑別にも有効です。このような検査手技は、医科の病院とほぼ同様に行っております。

口腔がんは浸潤増殖すると口腔から周囲の組織に広がってしまいます(写真1)。口腔の奥にある咽頭(いんとう)、上方の上顎洞(じょうがくどう)や鼻腔(びくう)、下方の頸部にも浸潤します。したがって、がんがどこまで浸潤しているか正確なCT診断が求められます。口腔がんの転移は、多くは頸部に存在するリンパ節(せつ)に生じます(写真2)。

舌がんの咽頭部や頸部への浸潤

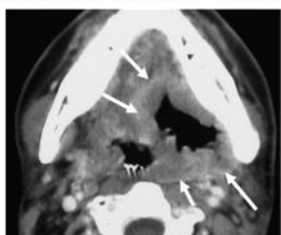


写真 1

頸部リンパ節転移のCT画像

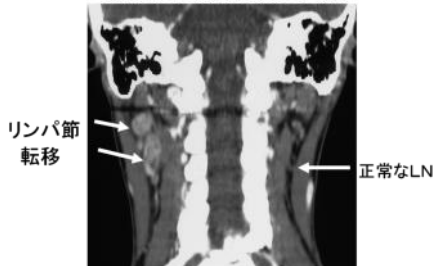


写真 2

その個数・部位や周囲組織との癒着などに関する正確なCT診断が求められます。また、がんが進行すると頸部以外にも転移を起こし、肺、骨、肝臓あるいは脳など様々な部位に生じます(写真3・4)。

口腔がんの肺への多発性転移

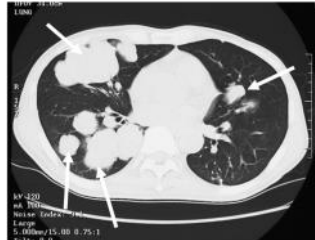


写真 3

口腔がんの肝臓への多発性転移



写真 4

子宮癌の転移

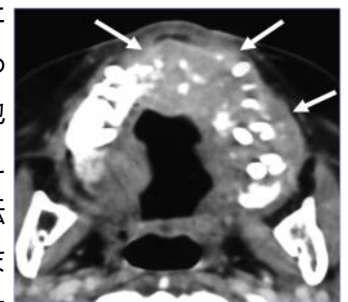


写真 5

一方で、隣接領域に生じたがんが口腔内へ浸潤してくる場合もあれば、全く離れた他の臓器に発生したがん(例えば、肺がん、肝臓がん)の転移もあります(写真5)。つまり、口腔がんの診断では口腔内に留まらず、周囲の領域、頭部、胸部や腹部など全身的に検査を行う必要があります。そして、検査結果を理解するには広い医学的知識が要求されます。よって、歯科に関する勉強は勿論ですが、われわれ医局員はCT診断に役立たせるための医学的知識も身につけるよう日々、研鑽を積んでおります。

上述したように、当院では医科用CTにて口腔悪性腫瘍の画像診断を行っていますが、医科の知識や経験を要するため、当科は本学の医学部放射線科や都内のがん専門病院とも連携し、他県も含め多施設の放射線科の名医の方々とも強く繋がりを持っています。

患者さんのご期待を裏切らないように最高の画像診断を目指して努力しておりますので、ご理解とご活用のご程、宜しくお願い申し上げます。

被災地の復興に手伝うことができます

9月で東日本大震災から1年半経ち人々の記憶から少し薄れてるように思われます。今年も学生による被災地のボランティア活動の引率をおこない、ゴールデンウィークと夏休みに活動を行いました。

ゴールデンウィークは岩手県の大槌町で、学生3名と引率3名で活動し、活動は大槌町の吉里吉里海岸での砂浜の清掃、土嚢づくりを行ってきました。今回の被害は想像もつかないもので、修復には年単位ではなく何十年単位で考えなければならぬと感じました。今回は砂浜の清掃を行いました。砂浜を数十センチ掘っただけでも瓦礫が出土し除去したとしても、ひと雨降って海が荒れば沖合からさらに瓦礫が流れてきて又砂浜が汚れることの繰り返しです。安心して砂浜を歩いたり、海水浴ができたりする日が早く訪れるように思います。

被害を受けた建物の撤去も進み、瓦礫が積み上げられていた場所の瓦礫もほとんど撤去されていました。町の中はさらに飲食店やコンビニを含むお店も増え再開が進んでいました。

夏休みは、学生7名引率3名で釜石市の海岸清



吉里吉里海岸(大槌町)(ゴールデンウィーク)

掃(根浜海水浴場)の流木(倒木や小さな木の枝)の撤去作業を含めた海岸清掃を初日に行い、2日目は大槌町の江岸寺の家族全員が亡くなり墓守のいなくなったお墓や、被災し他のお地域に移り

管理できなくなったお墓の草むしりを行いました。東日本大震災後、日本各地から様々な人がボランティアとして訪れ活動を行っているのを目にし、中には小学生の子供を連れた家族連れも活動を行っていました。

今年の夏休みは学生によるボランティア活動も盛んに行われており、大型バスで訪れて活動していました。

今回の震災でボランティアに対する意識も高まっていると思います。ボランティアという言葉は交流を通して互いに学びあうものであることだと思います。ただ、相手方(被災者・現地スタッフ・他のボランティア活動グループ)への言葉の使い方や行動に注意が必要と思われます。

補綴歯科 阿部 有吾



江岸寺の清掃(大槌町)(夏休み)



江岸寺(大槌江岸寺の住職と共に)(大槌町)(夏休み)

編集後記

ようやく秋のすがすがしい季節を迎えることができました。皆さま、秋の味覚を満喫されていらっしゃいますか。さて、昭和大学歯科病院では患者サービス向上委員会が今月より始動致しました。

皆さま方がより快適に歯科病院で医療を受けて頂けるよう今後様々な取り組みを行ってまいりますので、ご意見をどうぞお寄せ下さい。(ご意見箱を1階 待合室に設置しています。) (K.T)

